母ちひろの体感 作品に

越前市 長男松本さんが講演

越前市生まれの絵本画家いわさきちひろの長男で、ちひろ美術館常任顧問の松本猛さん(67)が22日、越前市福祉健康センターで講演した。深く愛された息子として、また美術評論家として解説し「ちひろの絵には子どもたちに幸せでいてほしいという願いが込められている」と語った。

生誕100年を記念し、武生公会堂記念館で始まった特別展「ピエゾグラフによるいわさきちひろの歩み展」の関連イベント。松本さんは、ちひろが1918(大正7)年に武生町(現越前市)で生まれてからの人生を年代を追って紹介。松本さんが学生時代に電車で武生を通過したとき、一緒だったちひろが「生まれて何十日しかいなかったけど、ものすごく懐かしく感じる」とまちに愛着を感じていたことも明かした。

母親の絵本画家いわさきちひろについて語る長男の松本猛さん=22日、越前市の市福祉健康センター

子どもを多く描いた作品については「優れたデッサン力だけでなく、母親として子どもに触れてきた体感が生きている」と説明。台風のときに外に出たがる自分を制するのではなく、一緒に外に出て遊ぶ母親だったとして「何よりも嫌だったのは子どもたちの不幸。子どもたちを大切に育てないといけないという思いが絵には表れている」と話していた。

(高島健)

ふくい地域